



～応援します！研究と生活の両立～

NEWS LETTER

第3号
2013.11

KIT 男女共同参画推進センター通信

KIT男女共同参画推進センター第2回セミナーを開催しました。 「仕事と育児・介護の両立 カジダン・イクメン・ケアメンー体験しています！」

平成 25 年 9 月 19 日（木）午後、本学 60 周年記念館 2 階大セミナー室にて、KIT 男女共同参画推進センター第 2 回セミナーを開催いたしました。

男女がともにひとりひとりの仕事と生活の上に、その能力を最大限発揮できる環境づくりを目指し、家事・育児・介護などワークライフバランスの側面からアプローチいたしました。

森迫センター長の開会の挨拶に続き、株式会社東レ経営研究所部長の渥美由喜氏より、「男性にとってのワークライフバランスー体験して広がる世界」と題して、ご講演を行っていただきました。



講師：渥美 由喜氏



講師：富田 晃彦氏

育児、介護と仕事の両立（ワークライフバランス）に関する社会的背景や誰もが関わる現実をご自身の 2 度の育児休業取得と介護の体験からわかりやすく、身近なできごととして、お話していただきました。男女共同参画やワークライフバランスは、価値観や仕事か生活かの二者択一ではなく、バランスが大切で、ワークの土台がライフであり、質の高い生活が質の高い仕事につながり、メリハリのある仕事が生活の余裕につながることなど、両立の意義、ヒントをいただきました。

休憩をはさみ、「イクメン体験で得た仕事能力ー想像・共感・信頼」と題して、和歌山大学教育学部副学部長の富田晃彦氏より、ご講演いただきました。大学の研究者として、3ヶ月間育児休業を取得した経緯や周りの反応などを具体的にお話していただきました。また、育児を経験して、時間管理能力やコミュニケーション能力、チームワーク力などを磨き、研究・教育の充実に結びついた経験を伺いました。

その後、参加者の男子学生や女性研究者からの質問を受けて、両講師とともに仕事と生活の両立について、さらに話を深めました。ワークライフバランスや男女共同参画推進は、個人的なことにとどまらず、仕事や組織の活性化や業務の向上につながっていくことをあらためて認識いたしました。

参加者より、「若い学生さん達にもベテランの先生方にも人生の質を上げる種が蒔かれたと思います」、「リアリティ満載で参考になるものが多く、濃く楽しい時間を過ごせました」、「男性教員にとっても役立つ内容だった」、「なかなか男女共同参画が進んでいないのはなぜでしょう」、「自分の価値観が新たに広がった」など、多くのご意見、ご感想が寄せられました。



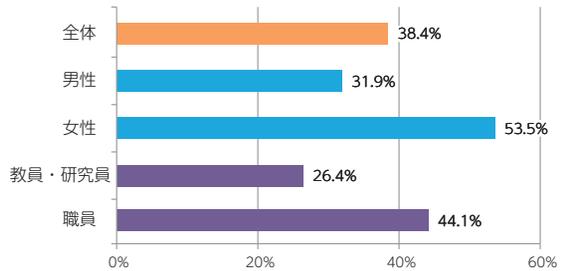
男女共同参画に関する意識調査の報告（概要）

本学での男女共同参画を推進し、支援制度の充実と今後の環境整備につなげるために、男女共同参画に関する意識調査を実施しました。集計結果の概要をご報告します。

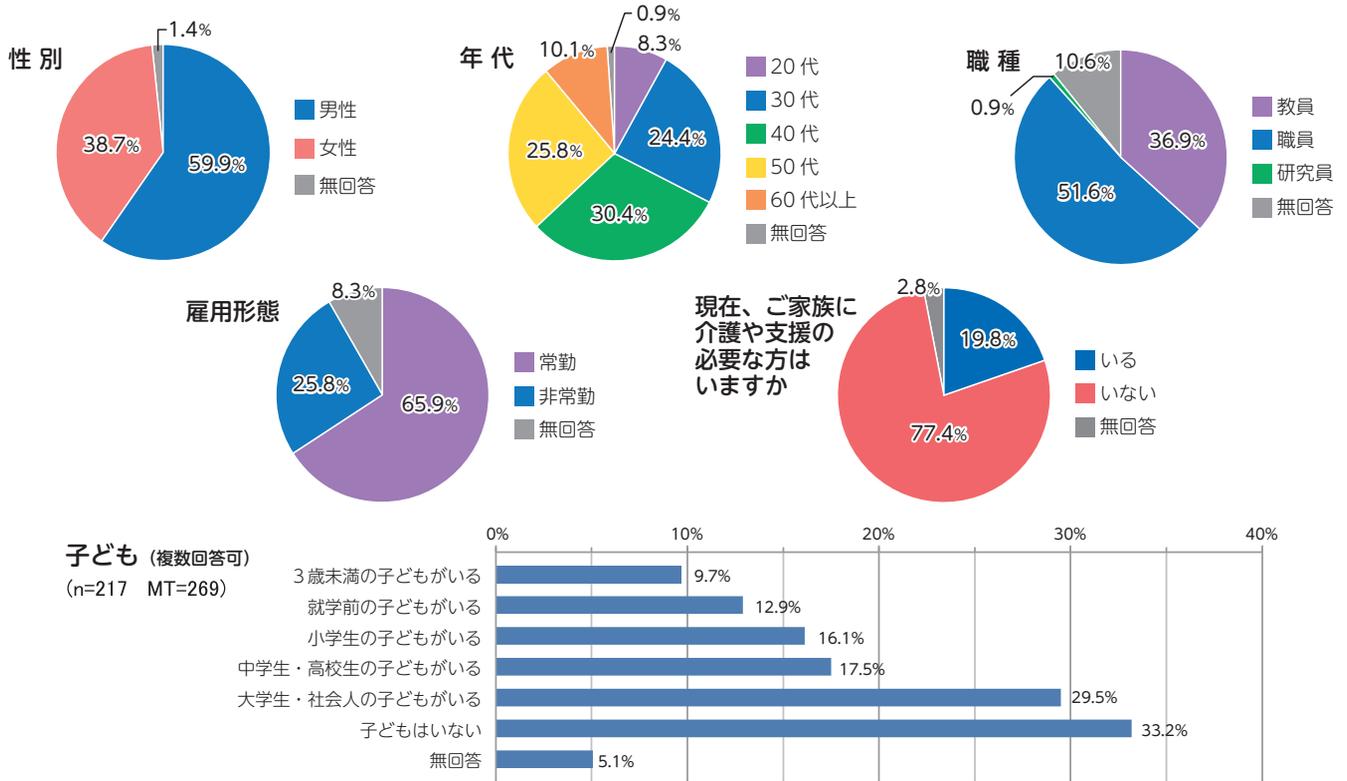
対象：本学の教職員
 配布数：565名
 調査方法：無記名アンケート方式
 実施期間：平成25年7月1日(月)～7月31日(水)
 回答数：217名
 回答率：38.4%

回答率（性別・職種別）

(n=母数 MT=複数回答の合計数 ※小数第1位までの表記)

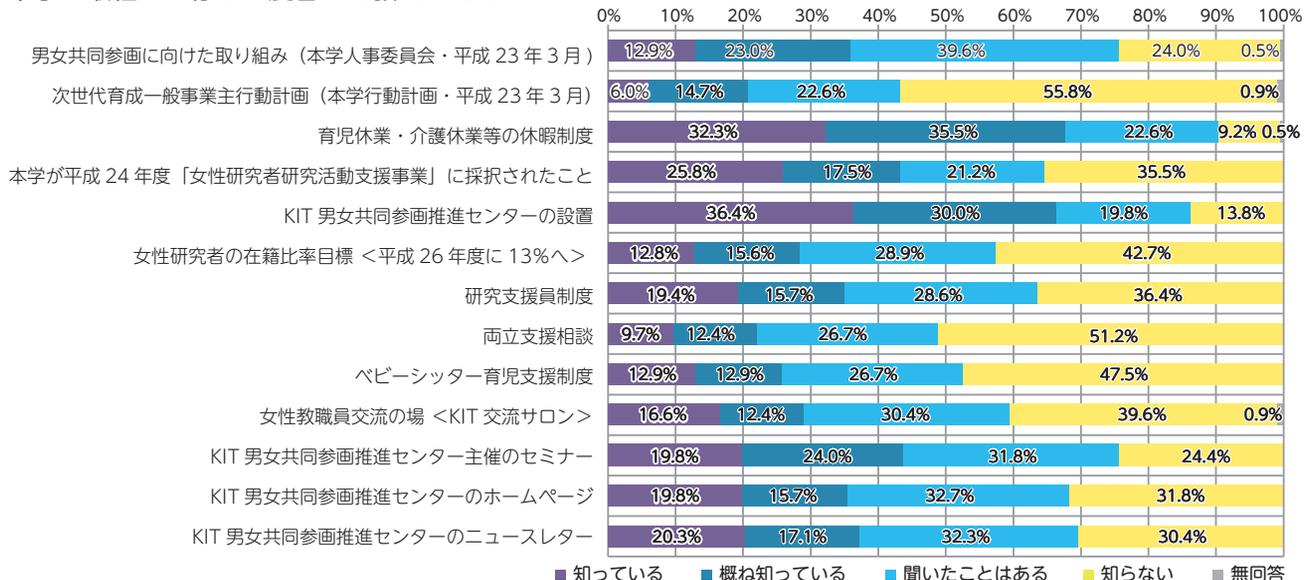


あなたについてお尋ねします (n=217)

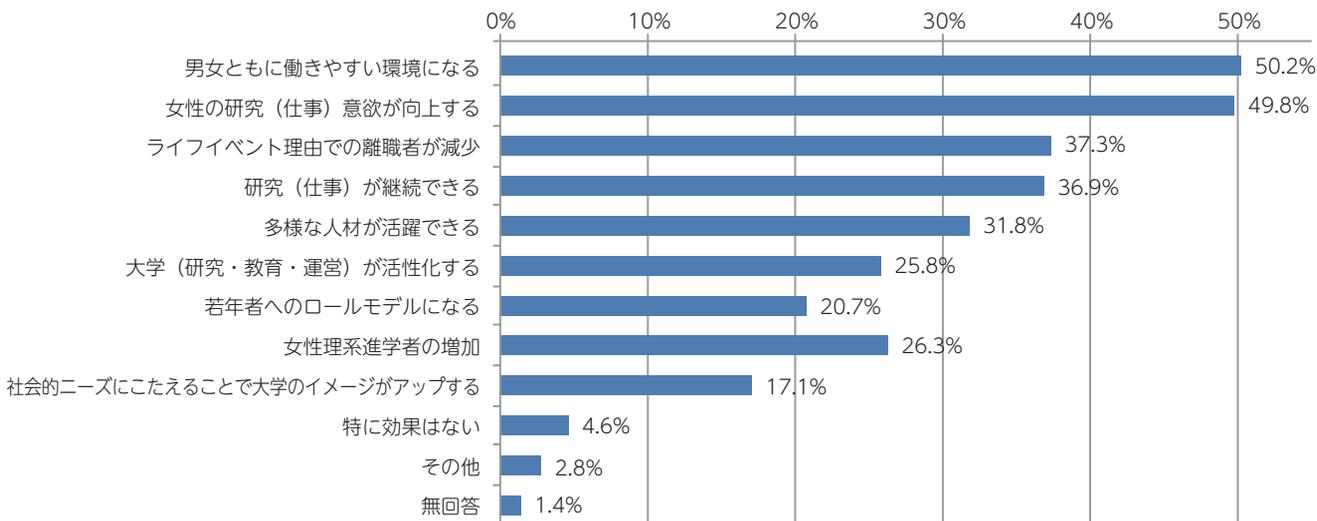


男女共同参画についてお尋ねします (n=217)

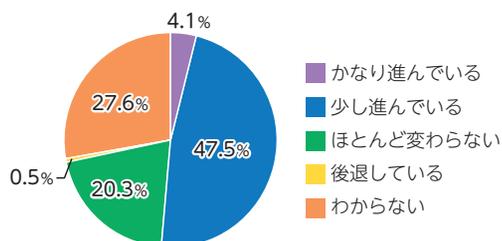
本学の取組でご存じの度合いを教えてください



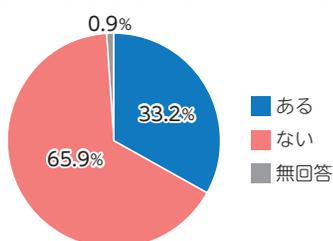
本学で男女共同参画を推進することとはどのような効果があると思いますか。(複数回答可) (n=217 MT=661)



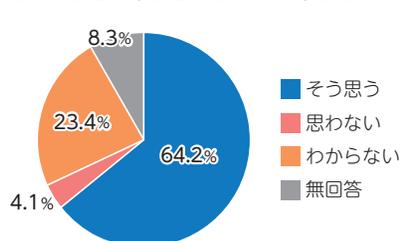
本学の男女共同参画の進展度についてどう思いますか



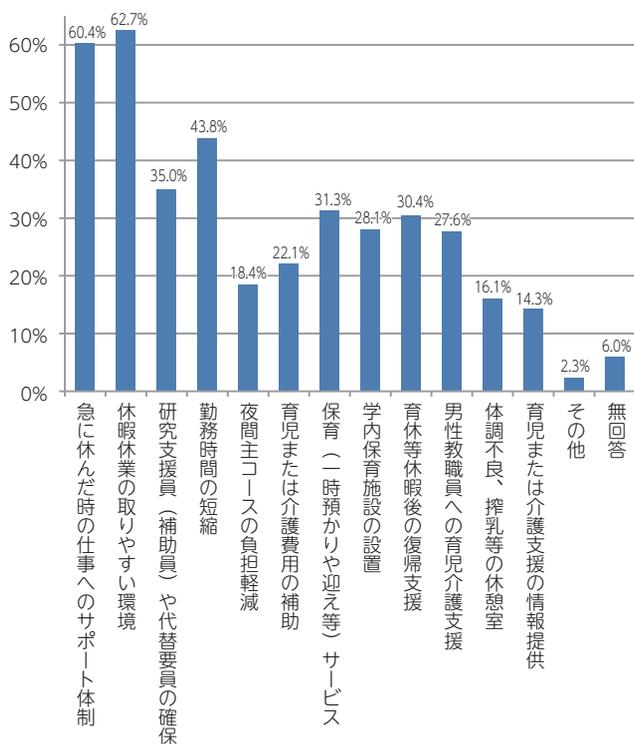
本学の業務上(職務上)での男女差を感じたことはありますか



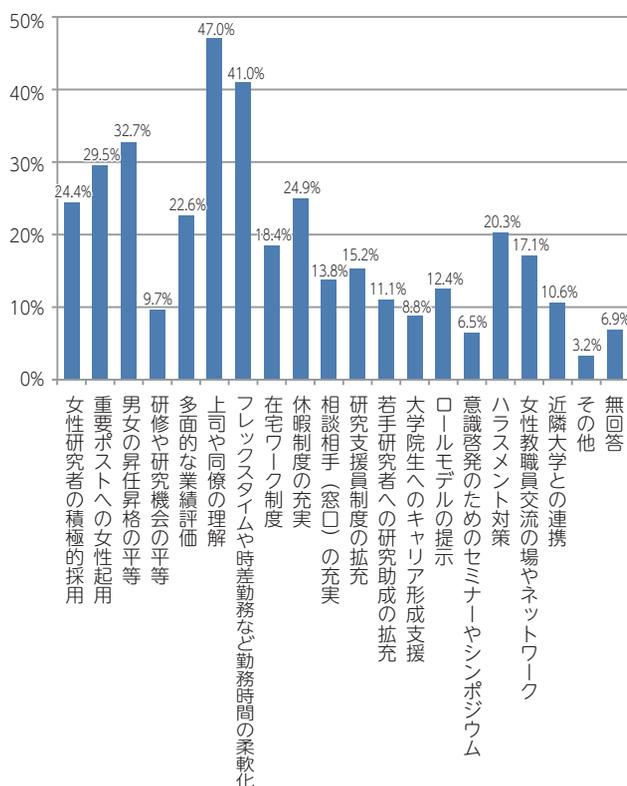
育児または介護中でも仕事(研究)を継続したい(したほうがいい)と思いますか



育児または介護中にはどのような支援が必要だと思いますか。(複数回答可) (n=217 MT=865)



本学において男女共同参画推進のために、どのような対策や支援制度が必要だと思いますか。(複数回答可) (n=217 MT=816)



○集計結果の詳細は、センターホームページに掲載しています。 <http://www.sankaku.kit.ac.jp/report/data.html>

活動報告

● ランチミーティングを開催しました

平成 25 年 8 月 8 日 (木) と 8 月 20 日 (火) のお昼休みに、「KIT 交流サロン」にて女性教員の方々とランチミーティングを行いました。

研究のこと、学生のこと、大学の歴史、研究環境、家庭のこと、地域のこと、男女の特性、趣味のことなど幅広い話が飛び交いました。和やかな雰囲気の中、女性同士で気軽な会話が楽しめました。初めて顔を合わせる先生方もいて、学系・分野を超えての交流のきっかけとなりました。また、このような機会を望む声が寄せられました。



ランチミーティングの様子

● センターの図書案内 ～イクメン・ケアメン特集～

『イクメンで行こう！育児も仕事も充実させる生き方』

(渥美由喜 著・日本経済新聞出版社)

育児経験が人間力を高める。仕事力を高める。
経験者がストーリー形式で、楽しさも苦労も全部ぶちまけます。
そこには思わぬ発見が！

『働きざかり 男が介護するとき』

(藤本文朗+津止正敏 編・文理閣)

介護者の 5 人にひとりが男性だという。にもかかわらず、我がこととして考えたことのある男性は少ない。男性介護者の本音、エピソードなど身の回りのできごとで溢れた本書は必見！

『男性の育児休業 社員のニーズ、会社のメリット』

(佐藤博樹・武石恵美子 著・中公新書)

これまでは男性社員が子育てに携わることを想定してこなかった。しかし、家事や子育てに関わりたくいと希望する男性にとって、従来型の雇用や仕組みは新たなストレスに。単に少子化対策や個人の問題にするのではなく、会社にとってもメリットを生む新たな視点を提示。

『ペコロスの母に会いに行く』

(岡野雄一 著・西日本新聞社)

62 歳の漫画家が描く、認知症の母との可笑しくも切ない日々。介護に携わる方々の共感を呼び、自費出版から書店のランキング入りするほどの話題作に。人には人の老い方がある。そして、人には人の介護のかたちがある。それが生き方。2013 年 11 月、映画となり公開される。

インフォメーション

○内閣府男女共同参画局より「平成 25 年版男女共同参画白書」が公表されました。

特集：「成長戦略の中核である女性の活躍に向けて」 ※センターでご覧いただけます。

○内閣府男女共同参画局ホームページに「男性にとっての男女共同参画コラム」が掲載されました。日常生活など、親しみやすい視点から、男女共同参画の気づきやヒントになるお話が掲載されています。

執筆一例

- ・「中高年男性にとってのワークライフバランス」 土堤内 昭雄氏 (ニッセイ基礎研究所 主任研究員)
- ・「これからの時代のイクメンが考えていくべきこと」 渥美 由喜氏 ((株)東レ経営研究所 研究部長)
- ・「しなやかな男」のすすめ 吉岡 俊介氏 (オフィスよしおか シニア産業カウンセラー)
- ・「男女共同参画の男性にとってのメリット」 山田 昌弘氏 (中央大学文学部 教授)

内閣府男女共同参画局ホームページ「男性にとっての男女共同参画」

http://www.gender.go.jp/policy/men_danjo/index.html

～応援します！研究と生活の両立～ ◇◇京都工芸繊維大学 KIT 男女共同参画推進センター◇◇

住 所 〒 606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町 京都工芸繊維大学 2 号館南棟 1 階 134 号室

TEL・FAX 075-724-7757 (内線 7757)

E メール sankaku@kit.ac.jp ホームページ <http://www.sankaku.kit.ac.jp/>